

保育園利用者を対象とした乳幼児連れの人々の移動の現状に関する基礎的研究

福岡大学大学院 学生会員 ○岡 泰佑
 福岡大学工学部 正会員 辰巳 浩
 福岡大学工学部 正会員 堤 香代子

1. はじめに

近年、わが国では少子化問題が深刻化しており、子育て環境の向上が求められている。このことは、交通分野についても例外ではなく、乳幼児連れの人々が快適に移動できる交通環境を創出することは重要な課題のひとつであるといえる。

本テーマに関する既往研究^{1)~6)}についてみると、その実績は非常に乏しい。また、そのほとんどは、関東・関西の大都市圏を調査対象地域としたものであり、公共交通利用を前提としたものとなっている。

そこで本研究は、こうした大都市圏に比してマイカー依存度が高い地方都市を対象とし、アンケート調査を実施することにより、乳幼児連れの人々の移動実態とその意識を把握することを目的とする。なお、本稿では保育園利用者を調査対象としており、すなわち、仕事を持つ人々を分析対象としている。

2. 調査概要

アンケート調査は、福岡市中央区、西区、城南区の保育園9か所を対象とし、平成22年11月に実施した。調査票の配布・回収は保育園の協力により保護者への連絡帳に挟み込むことで行った。配布部数は870部であり、回収部数は452部で回収率52.0%であった。回収部数の452部の被験者の居住地の内訳は、城南区190部、西区142部、中央区67部、その他の区が53部である。調査項目は表1に示すとおりである。

表1 アンケート調査項目

個人属性		性別, 年齢, 就業, 住まい, 家族構成, 最寄り駅の有無, 食材の宅配利用状況, 自家用車の有無
外出先別の交通状況	買い物に行く場合	利用スーパー名, スーパーまでの距離, スーパーの交通手段
	保育園の送迎の場合	保育園までの距離, 保育園までの交通手段, 保育園の送迎時間
	レジャーの場合	主な交通手段
	病院へ行く場合	主な交通手段
運転状況・満足度		運転中気をつけること, スーパーの駐車場利用満足度, 駐車後の利用満足度

3. 調査結果

(1) 居住区別の交通手段

図1~図3は、居住区ごとの乳幼児連れの人々の主な交通手段を目的別に示している。

都市部である中央区ではマイカーの利用割合はさほど高くないものの、公共交通の利用割合は低く、自転車の利用が高い傾向にあることがわかる。また、最も郊外に位置する西区では、すべての交通目的において、大部分がマイカーを利用しており、公共交通の利用割合は非常に低い結果となった。

レジャーについてみると、居住区に関係なくマイカーの利用率が高い結果となっている。すなわち、地方都市においては、都心部であっても、レジャーにはマイカーを利用する傾向が強いといえる。ここで、レジャーについては「同乗」の割合が高いが、本調査の被験者の多くは女性であり、レジャー時は夫が運転するケースが多いことがその理由として考えられる。

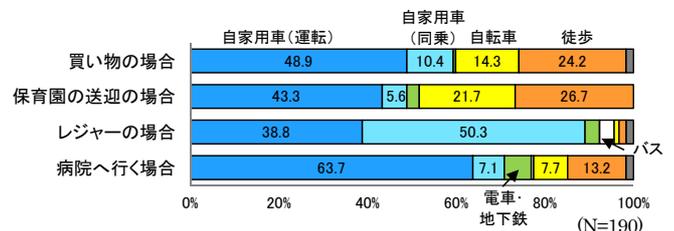


図1 城南区居住者の交通手段

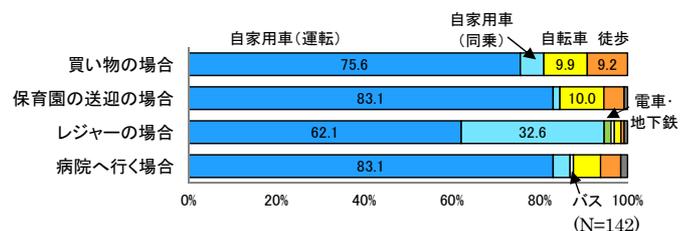


図2 西区居住者の交通手段

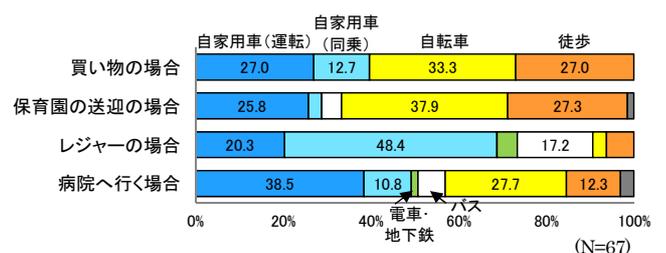


図3 中央区居住者の交通手段

キーワード: 乳幼児連れ, 保育園利用者, アンケート調査, 交通行動

連絡先: 〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1 TEL:092-871-6631(内線 6483), FAX:092-865-6031

(2) 買い物時における駐車場の利用満足度

以下の分析は、回収枚数 452 部中、買い物等の駐車時の満足度に回答のあった 305 部について示す。

図 4 は、マイカーをスーパー等に駐車する際の満足度を示している。図より、不満・やや不満の割合は 2 割程度であることがわかる。また、図 5 は駐車後の移動の際の満足度を示している。図より、全体的に不満・やや不満の割合は低い、「雨天時の駐車場と店の間の移動の快適性」の満足度が他と比べて低い結果となった。

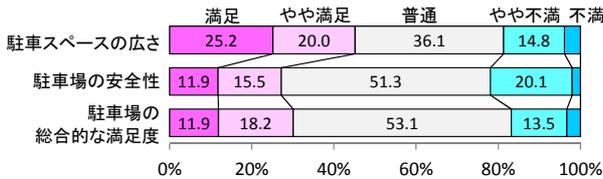


図 4 買い物時の駐車に関する満足度

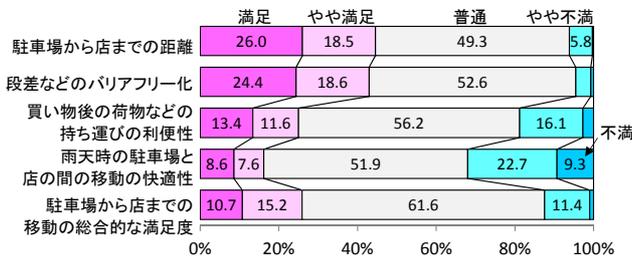


図 5 買い物時における駐車後の満足度

(3) 居住区別の買い物時における駐車に関する満足度

図 6 は、居住区別の満足度について示している。図より、居住区により満足度が異なり、特に「駐車スペースの広さ」については都心である中央区の満足度が低くなっていることがわかる。

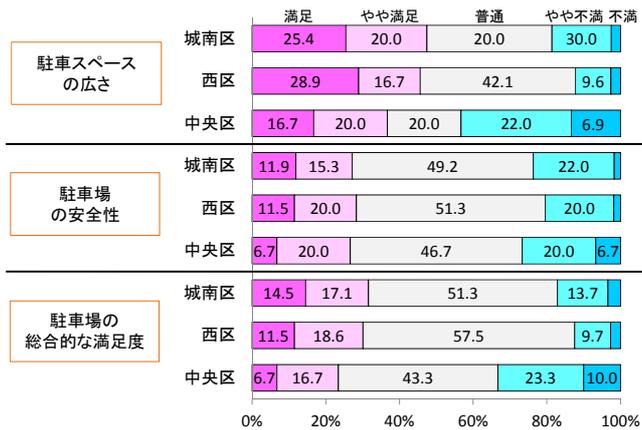


図 6 居住区別の駐車における満足度

(4) 居住区別の駐車後の利用満足度

図 7 に居住区別の駐車後の利用満足度を示す。図より、居住区により満足度が異なり、特に「雨天時の駐車場と店の間の移動の快適性」については中央区の満足度が低くなっていることがわかる。その理由として、都心部では郊外部に比して駐車スペースが狭いことがあげられる。

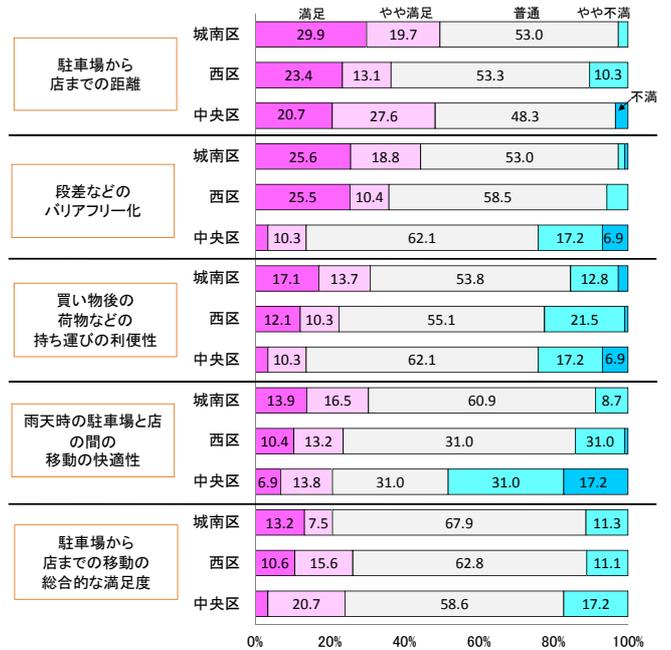


図 7 居住区別の駐車における満足度

4. まとめ

本研究では、保育園利用者を対象にアンケート調査を実施し、乳幼児連れの移動実態とその意識について分析した。その結果、都心部においては比較的マイカーの利用割合は低いものの、かなりの割合がマイカーを利用しており、郊外部では大部分がマイカーに依存している実態を確認した。このように地方都市においては、マイカーへの依存度が高いことから、乳幼児連れの人々の移動支援についてもマイカー利用を前提とした施策の検討も必要であるといえる。

また、マイカーで買い物に行く際の駐車に関する満足度については、満足度は比較的高いものの、地区によりその割合に差があることが分かった。

今後の課題として、居住区別の満足度の相違について、その背景を詳細に分析することが挙げられる。

参考文献

- 1)小塚勝紀, 新崎淳史, 波床正敏:子連れ移動者の視点からみた交通バリアフリーの課題抽出, 土木計画学研究講演集,第 28 巻,2003.
- 2)新福綾乃,十代田朗,津々見崇:乳幼児を伴う外出行動の実態に関する研究 -東京・自由が丘及び代官山におけるケーススタディ-,都市計画論文集,第 62 巻,第 444 号,pp367-372,2009
- 3)木村祥法,石田千早,波床正敏:堺市中心市街地周辺の子連れの行動について,土木計画学研究講演集,第 61 巻 4 号, 2006
- 4)大森宣晔,谷口綾子,真鍋陸太郎,寺内義典:子育て中の母親の外出行動とバリア, 土木計画学研究講演集,第 39 巻,pp105-108,2009
- 5)柳田穰,谷口綾子,石田東生:公共交通機関の子連れ利用における心理的バリアの軽減を目的とした説得的コミュニケーションによる態度変容効果分析, 土木計画学研究講演集,第 41 巻,2010
- 6) 波床正敏,小塚勝紀:バリアフリー施設が子連れトリップの駅選択に与える影響の分析, 土木計画学研究講演集,第 31 巻,2005
- 7)岡泰佑, 辰巳浩, 堤香代子:乳幼児連れの人々の移動の現状とその支援に関する基礎的研究-保育園利用者を対象として-, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, 2011